

MaxGauge for MySQL リポジトリバックアップ 運用ガイド

日本エクセム 株式会社

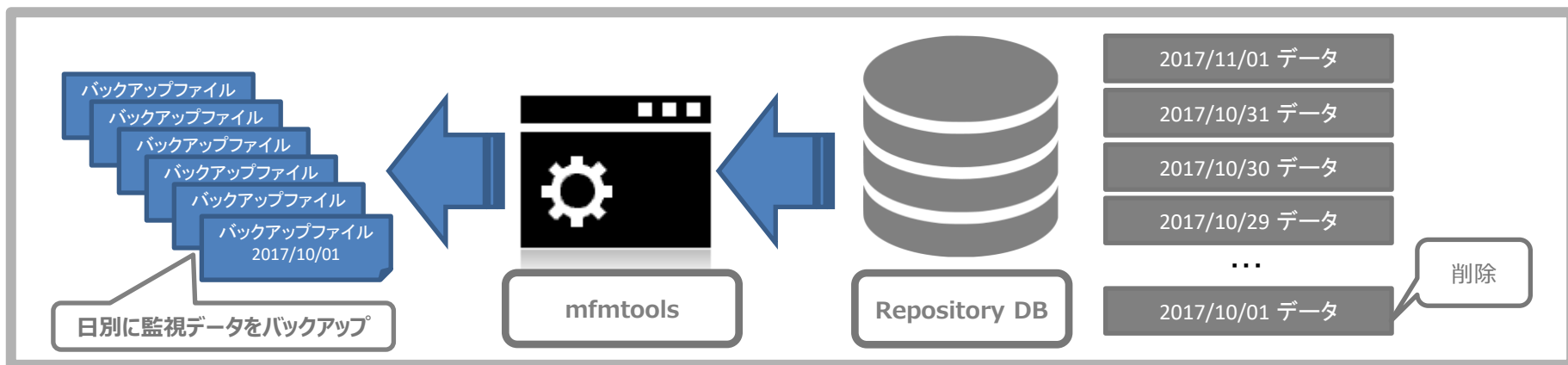
<http://www.ex-em.co.jp>

2021年2月

リポジトリDBのバックアップ

MaxGaugeで収集したデータはロギングサーバのリポジトリDBに保存されます。リポジトリDBに保存されたデータはデフォルトで31日経過すると自動的に削除されます。(保存期限は変更可能)
製品に付属するmfmtoolsのバックアップ機能は、リポジトリDBのデータをバックアップして保存期限より古いデータをバックアップファイルとして保存することが可能です。

また、mfmtoolsで取得したバックアップファイルは、リポジトリDBにリストアすることが可能です。リポジトリDBの保存期限を経過した過去のデータを閲覧したい場合は、mfmtoolsを利用してバックアップファイルをリポジトリDBにリストアすることで、MaxGaugeから過去の監視データを閲覧することが出来ます。



バックアップ対象のデータ

バックアップツールがバックアップするデータには主に2種類のデータがあります。

■ マスターデータ

マスターデータは、MaxGaugeの設定情報などが含まれます。

マスターデータには、MaxGaugeに登録されたデータベースの情報、アラート設定、などの情報が含まれます。

■ 監視データ

監視データは、MaxGaugeが監視対象DBから取得したデータを示します。監視データには、アクティブセッション、SQLの実行情報、OSのCPU、メモリの使用状況などの情報などが含まれます。

監視データのバックアップは、日単位でバックアップされます。

mfmtoolsの導入

■ インストール

インストールの詳細手順は「 mfmtools 利用ガイド 」をご参照ください。

■ 設定するパラメータ

バックアップ関連の主なパラメータ

設定ファイル名	パラメータ	説明
mfm_config.ini	db_user/db_password	MySQL (リポジトリDB)に接続するユーザ名とパスワードを設定
mfm_backup.cfg	backupdir	バックアップファイルが保存されるディレクトリを指定

マスターデータのバックアップ

■ 実行コマンド

```
/opt/maxgauge/mfmtools/bin/mfm_repo_master_backup.py
```

実行時点のマスターデータがバックアップされます

■ バックアップファイル

```
mysql-mfm-master_<YYYYMMDD>.tar.gz
```

コマンドを実行した日の日付がファイル名に付与されます

監視データのバックアップ

■ 実行コマンド

```
/opt/maxgauge/mfmttools/bin/mfm_repo_backup.py -d <YYYYMMDD>
```

<YYYYMMDD>で指定した監視データがバックアップされます

■ バックアップファイル

```
mysql-mfm-<YYYYMMDD>.tar.gz
```

バックアップした監視データの日付がファイル名に付与されます

リポジトリ・バックアップの運用例

MaxGaugeのリポジトリのバックアップ運用例（CRONによる定期実行）

■ 設定例（1）

```
5 6 * * * /opt/maxgauge/mfntools/bin/mfm_repo_master_backup.py > /dev/null 2>&1
5 7 * * * /opt/maxgauge/mfntools/bin/mfm_repo_backup.py -d `date +"%Y%m%d" -d "1 days ago"` > /dev/null 2>&1
```

マスターデータと前日の監視データを毎日取得する例です。

■ 設定例（2）

```
5 6 * * 0 /opt/maxgauge/mfntools/bin/mfm_repo_master_backup.py > /dev/null 2>&1
5 7 * * * /opt/maxgauge/mfntools/bin/mfm_repo_backup.py -d `date +"%Y%m%d" -d "1 days ago"` > /dev/null 2>&1
```

マスターデータは、毎週日曜日のみ、前日の監視データを毎日取得する例です。MaxGaugeの設定の変更が少ない場合はマスターデータのバックアップは週1回などに変更することで管理するバックアップファイル数を削減することが出来ます。

データリストア

監視データの有効期限が切れて、リポジトリよりデータが削除された場合、バックアップファイルよりデータをリストアすることでパフォーマンスアナライザでデータを閲覧することが可能です。

■ 監視データのリストア

```
/opt/maxgauge/mfertools/bin/mfm_repo_restore.py -l
```

リストア可能な監視データのバックアップファイルが表示されます。

```
/opt/maxgauge/mfertools/bin/mfm_repo_restore.py -d <YYYYMMDD>
```

「-l」オプションで表示された日付を「-d」オプションに指定します。

データリストア

■ マスターデータリストア

マスターデータのリストアは、「過去の状態にMaxGaugeのデータを復元する」「リポジトリデータを他のMySQLに移動する」「データ破損からの復旧」などで利用します。

`mfm_repo_restore_master.py` コマンドを利用してマスターデータをリストアします、コマンドの使用方法は「mfmtools利用ガイド」をご参照ください。

■ リポジトリの復元、移動の主な手順

リポジトリを別にサーバに移動、もしくは、障害よる復旧など、再構築する主な手順は以下となります。

- ① `/opt/maxgauge/mfm/bin/install/install.sh`でMaxGauge用のDBを作成
- ② `mfm_repo_catalog.py -r` カタログファイルをリストア
- ③ `mfm_repo_restore_master.py` でマスターデータをリストア
- ④ `mfm_repo_restore.py` で監視データをリストア